

## 背景

空知署では約300haの防風保安林（以下、防風林という）を管理している。植栽から60年を経過したものが約半数あり、平成26年度から高齢化した防風林の再整備を行っている。一方、管内の防風林には石狩泥炭地の様々な希少植物が生育しており、自分たちがこれまで行った事業（伐採や下刈）の中で「希少な植物の生育に支障が出ている」との学識者や地元保全活動団体から問題が提起された。学識者や地元の方との対話を通じて、新たな視点での取組について紹介する。

## 防風保安林整備事業の経緯

H24年度：以前から倒木や枝の飛散などが発生し、地元住民を中心に再整備（伐採）の要望があり、市町関係者、地元住民と意見交換会を実施

H25年度：上記関係者の他、学識者を含めた現地検討会の実施

H26年度：環境調査を実施、防風林の再整備に着手



R2年度まで約37haの再整備を実施

R2年度：学識者、地元保全活動団体から問題提起



防風林再整備のイメージ図



伐採、植栽後の防風林

## 学識者、地元活動団体から問題提起

## ① チョウジソウ：準絶滅危惧（NT）

開花時期は5月～7月 株又は種子から繁殖

「希少植物があるのに伐採をしている」との学識者から連絡があり、学識者、局、署で現地を確認し、伐倒木残置箇所にチョウジソウの生育箇所を確認した。

その後、3者で検討会を開催し、防風林の再整備状況、経緯、施業方法及び希少植物への対応状況を説明。意見交換の中で「林地残材については植物の生育に影響が大きいので解消すべき」との指摘があった。

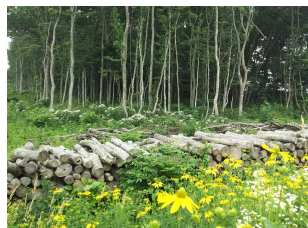
→R2年度：林地残材（丸太及び末木）の一部撤去



現地調査の様子



チョウジソウ（8月）



林地残材の様子



撤去後の様子

② エゾカンゾウ（ゼンテイカ）：この地区では珍しい  
開花時期は6月～7月 株又は種子から繁殖

地元の保全活動団体から、「伐採後、植栽した箇所にエゾカンゾウがたくさん生えてきたが、下刈で刈り払われてしまっている」との連絡があった。防風林再整備の取組を説明する中で、「当該箇所を自分たちで下刈し、外来植物を抜取り、地域に生育している植物の保護、環境教育活動の場として利用したい。」との申し出があった。

→R3年5月 「ふれあいの森」協定締結



伐採、植栽後に生育するエゾカンゾウ



外来植物（オオアワダチソウ）の抜取りをしている様子

## 考察

- ・防風林の再整備に精通している職員が少ない。地元の方も防風林の役割について理解している者が少なくなっている。
  - ・林内に希少植物があることを職員も知らない。
  - ・国有林の画一的な整備（伐倒木の残置、下刈）が、希少植物の生育を妨げている。
- など職員の知識の習得や地元の方にも理解をもらうには、**国、学識者、地元の方3者の連携・協力が不可欠**

## 今年度の取組

- ・現地検討会の開催  
→ 開花時に合わせて検討会を開催。林地残材撤去後の現地を確認し、チョウジソウを確認。また、今年度の再整備計画箇所に希少植物が生育していないか学識者に再確認。
- ・防風林整備に対する取組や地域の取組について紹介  
→ 看板の設置、パンフレットの作成



チョウジソウ（6月）



パンフレット

## 今後に向けて

- ・地拵・植栽後の希少植物の生育確認など検討会を開催。
- ・3者によるPR活動の実施 → 学識者による講演会、地元の方を対象とした自然観察会、防風林の取組をPRするための植樹祭、職員を対象とした希少植物の勉強会を開催
- ・希少植物の開花時期を外しての下刈や、生育箇所から下刈を除くことなどを検討する。
- ・林地残材については農地に隣接しているため、全てを撤去することは困難。しかし、野鼠や害虫の恐れも指摘されていることから今後検討する。